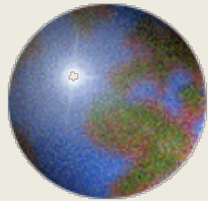


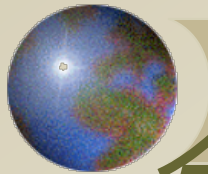
第十一次自治制度研究会

だれも排除されない社会のために —「教育現場」と「コミュニティ防災」で考える多文化共生—



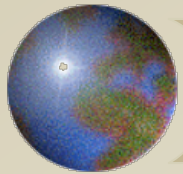
大阪大学グローバルコラボレーションセンター
NPO法人多言語センターFACIL

吉富 志津代



今日のお話

- ✦ 人権意識調査
- ✦ 外国人とはだれか？
- ✦ 私たちの活動
- ✦ 地域の多様な子どもたちのことを考える
「ことば」と「アイデンティティ」
- ✦ 地域の多様な住民とのコミュニティ防災を考える
「阪神・淡路大震災」「東日本大震災」
- ✦ 地域社会の双方向のコミュニケーション
→だれも排除されない共生社会へ



人権意識調査

(内閣府「2007年人権擁護に関する世論調査」より)

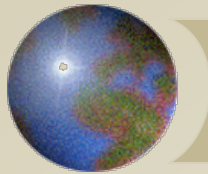
＊「日本国籍を持たない人でも、日本人と同じように人権は守るべきだ」

→「はい」 **わずか59.3%**

＊「日本に居住している外国人が不利益な扱いを受ける事があるが、どう思うか」

→風習／習慣や経済状態が違うのでやむを得ない
33.7%

「人権」という概念を共感に変えるための活動



「外国人」とはだれか？

地域の多様なマイノリティたち

- ✦ 障がいのある人
- ✦ 難病になってしまった人
- ✦ セクシャルマイノリティ

- ✦ **外国出身者**

出生地、居住地、民族、文化・習慣、言語、etc.

在留外国人—約200万人

在留カード(日本国籍をもたない住民), 特別永住者証

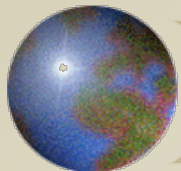
- 27種類の在留資格

日系人、日本人の配偶者、定住者、就労関係、留学、興行、外交、研修、短期(親族訪問)など個人や国によって異なる来日の背景

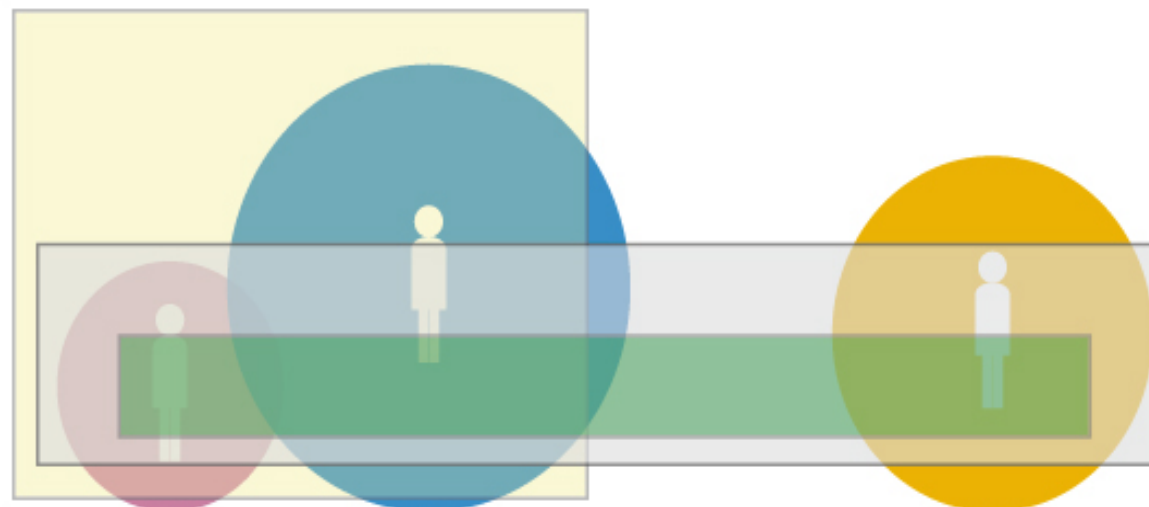
→ 毎年1万～1万5千人が日本国籍取得

→ 日本国籍と外国籍の両親を持つ子どもは双方の国籍留保 (22歳までに要選択)

その他の、国籍には表れない多文化・多民族 → **多様になった地域住民**



外国にルーツを持つ住民と三つの壁



【解説：通訳が必要な外国人】

外国出身の住民は日本社会でことばの壁、心の壁、制度の壁を感じているといわれています。このハンドブックでは、「ことばの壁」のある人（緑の部分に覆われているエリア）について「外国人患者」としています。

心の壁とことばの壁は3種別の外国人に共通して、相当な部分を覆っていることがわかります。

凡例



非正規
滞在者



外国人登録者
外国籍または
無国籍
(約 220 万人)



日本国籍
取得者



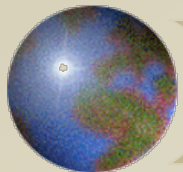
心の壁



制度の壁



ことばの壁



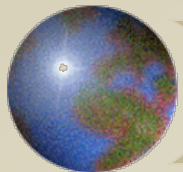
NPO法人『エフエムわいわい』

多言語放送を通じた多文化共生のまちづくり
当事者による多言語情報提供(10言語)

★マイノリティの発信ツールとして★



2015.9.29吉富志津代

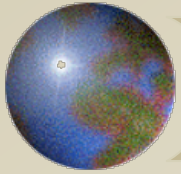


『ワールドキッズコミュニティ』-Re:c

- ✪ 多文化な子どもたちによる映像制作(DVD)
- ✪ 独りじゃなくて大勢で観る上映会
- ✪ アニメ、紙芝居、さらにはラップでも
- ✪ 映像ポータルサイト「わいわいTV」



2015.9.29吉富志津代



移民コミュニティのエンパワーメント①

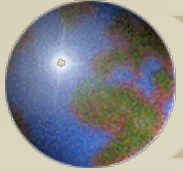
「関西ブラジル人コミュニティ」

(2003年4月ワールドキッズコミュニティより独立)

移民祭、母語教室、相談活動、フェスタジュニーナなど



2015.9.29吉富志津代



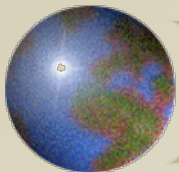
移民コミュニティのエンパワーメント②

「ひょうごラテンコミュニティ」

(2011年4月ワールドキッズコミュニティより独立)

スペイン語情報誌発行、母語教室、ラジオ番組制作など



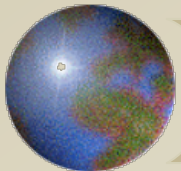


NPO法人『多言語センターFACIL』

●翻訳・通訳/多文化・多言語企画のコミュニティビジネスの展開
(登録者907名/51言語対応)により、地域社会の雇用と多言語環境の促進

生活ガイド 今日は 日本語	せいかつガイド こんにちは やさしいにほんご	Living guide Hello ENGLISH 英語	生活指南 你好 中文 中国語
생활가이드 안녕하세요? 한국 · 조선어 韓国朝鮮語	Guia de informação do cotidiano Boa Tarde PORTUGUÊS ポルトガル語	Guía sobre la vida cotidiana ¡Hola! ESPAÑOL スペイン語	Im Alltag hilfreiche informationen Guten Tag DEUTSCH ドイツ語
Le guide de vie Bonjour FRANÇAIS フランス語	Hướng dẫn về đời sống Xin chào TIẾNG VIỆT ベトナム語	Panduan hidup Selamat pagi INDONESIAN インドネシア語	Patnubay sa pamumuhay Kumusta TAGALOG タガログ語

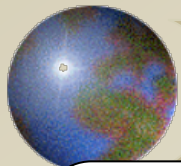




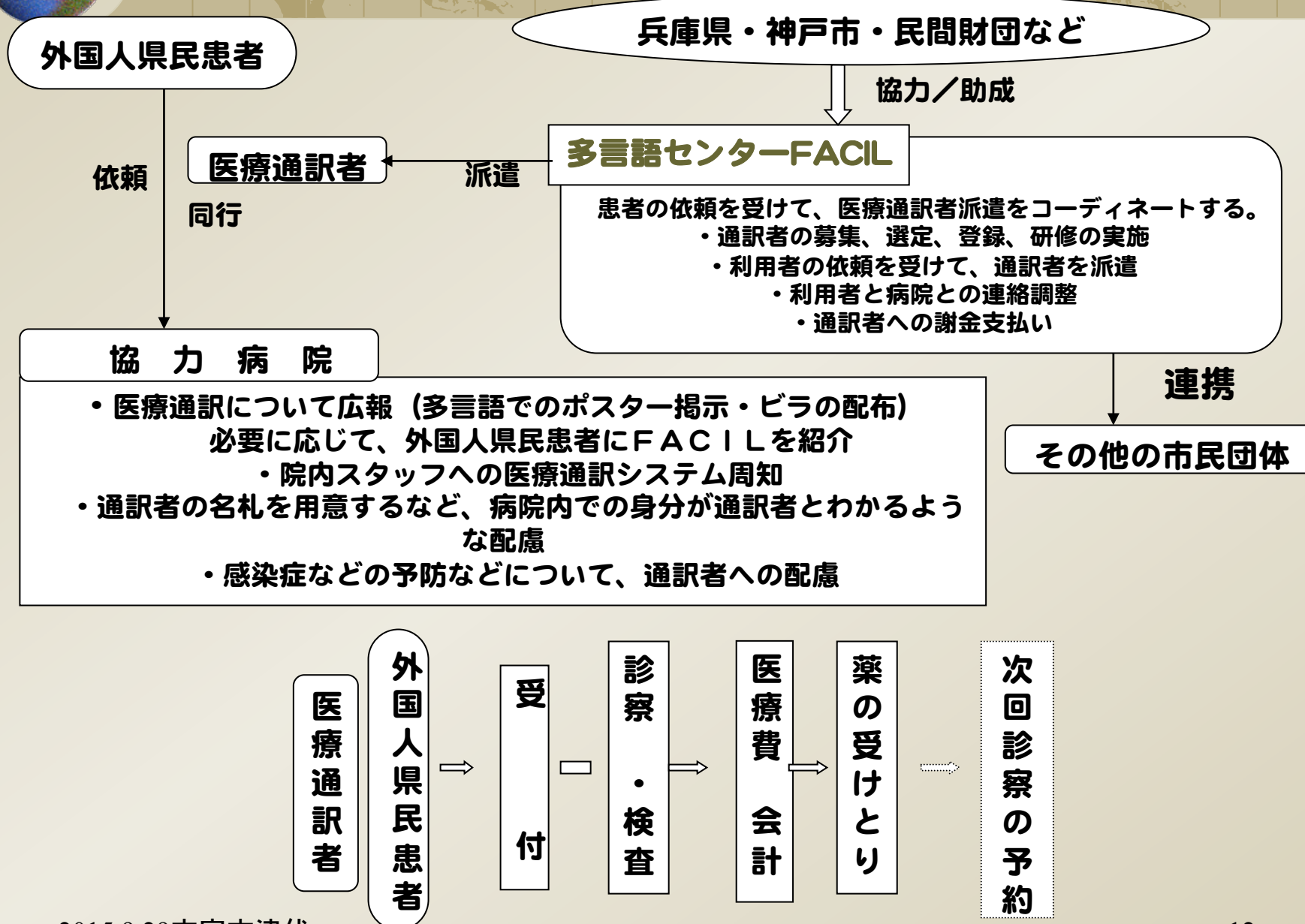
多岐に渡るコーディネート機能も

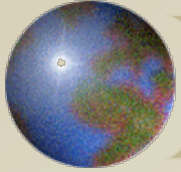
①“世界の食卓とおもてなしの出前サービス” あなたのお宅に世界のシェフが！



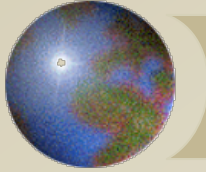


②“医療通訳システム構築のためのモデル事業”





地域の、 外国にルーツをもつ多様な 子どもたちのことを考える



親に連れてこられた子どもたちのこと ～二つ以上の文化の狭間で～

「ことば」と「アイデンティティ」

✦ 幼稚園／学校生活

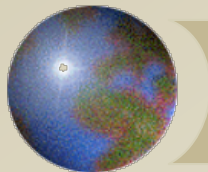
ルール／しくみ（給食、参観日、連絡帳...）

伝統行事、授業の内容、教科学習、進学のこと

✦ 家庭生活

親とのコミュニケーション、習慣、家庭教育

✦ 将来のこと・・・進路／夢がもてるかどうか

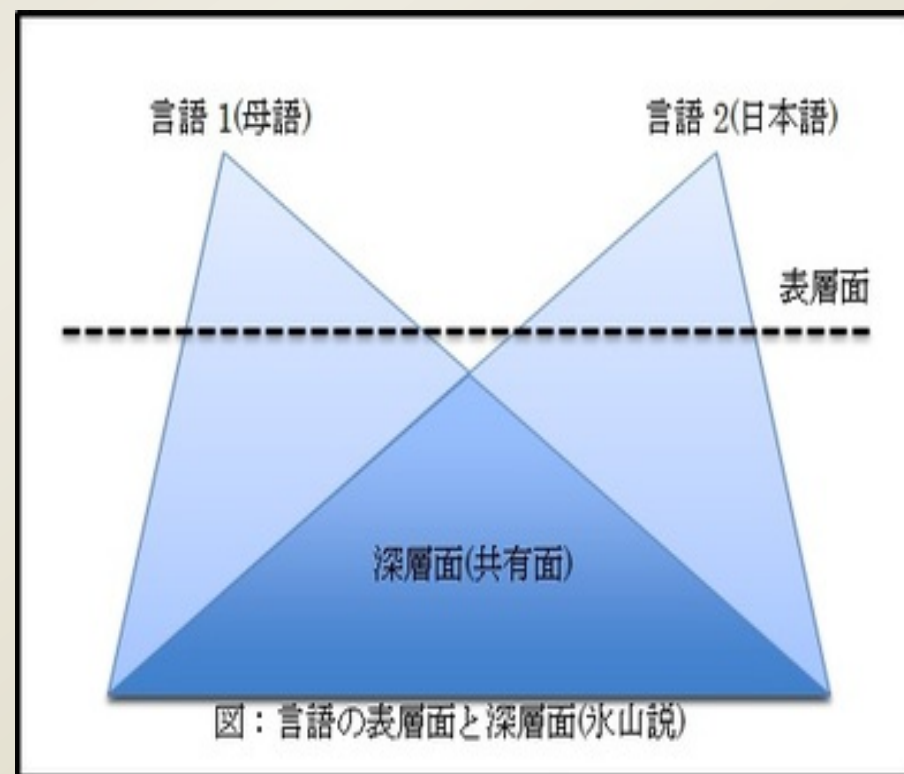


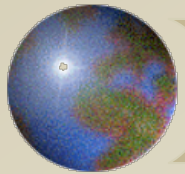
「ことば」(言語形成)

❖ 母語＝国籍ではない

生まれて最初に身につけてきたことば
自分の気持ちを表現し、
ものを考えるときに
必要な道具

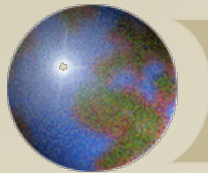
→意識・無意識に関わらず
頭の中で 並べ替えていく
基本的な記号





現状はどうか

- ✦ 友だちと話をしなくなる園児
- ✦ 乱暴な性格の裏に潜む日本語理解の壁
 - プライドとストレス
- ✦ 自分が主役になれるという可能性・自信
- ✦ 言語がまざっておこる混乱
 - 単語のおきかえではない
- ✦ 学習言語か母語かではなく、ひとりひとりの言語形成という視点の欠如
- ✦ 家庭環境の影響の大きさ
 - 保護者不在
 - 保護者に日本語で話すことを強いる

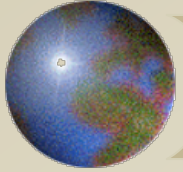


言語形成の多様な背景

- 1) 根幹となる言語形成以前に来日、あるいは日本生まれの子ども
- 2) 10才程度まで母語のみの生活言語および学習言語であった子ども
- 3) 義務教育レベル終了手前まで母語で学習を受けてから来日している子ども
- 4) 義務教育まで母語による教育を受けた子ども



個別の言語形成レベルチェックの必要性
→DLAなどの活用

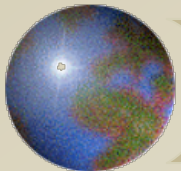


アイデンティティ

自尊感情を損なった子どもたちの 自己表現／発信の大切さ

萎縮してしまう→発信する機会の創出の必要性

- ・ 自己否定せず、自分は自分でいいのだということを実感
- ・ 何か一つのことを仕上げることで味わう達成感や自信を取り戻す



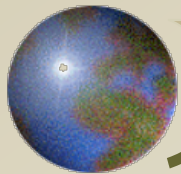
■ 課題

親が不在

個別の言語状況への
対応が不十分

深刻な問題

- ・ セミリンガル
- ・ 発達障害
- ・ 精神疾患



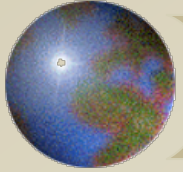
多くの子どもたちが。。。

- ❖ 中途半端な言語形成
 - ❖ 自分自身のアイデンティティに自信が持てない
 - ❖ 日常的な精神的ストレス
 - ❖ 中には犯罪へ走る子や集団リンチに合う子
- 不就学、不登校へ

日本国籍を持たない子どもにとっては、義務教育ではない？

教育を受ける権利

世界人権宣言第26条第1項に示された「万人のための教育」



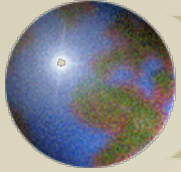
❖ 母語教育の重要性

母語習得による認知力・思考力の向上

母語能力
の向上



日本語能力
の向上



日本語と母語、二つの言語への視点

母語習得による認知力・思考力の向上

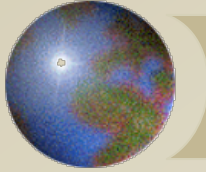
親子間のコミュニケーションの促進

アイデンティティの確立

進学や職業選択を有利にする資源

自尊感情を育成

公的教育機関では難しい＝保護者・市民団体との連携へ



日本の学校教育環境

★学校の異文化理解教育

小・中学校で行われる異文化理解教室

→留学生が自分の国を紹介する、etc.

学校での“地球市民教育”→国際NGO提供

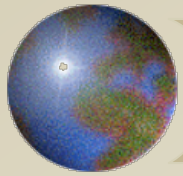
★公的サポート体制

- ・子ども多文化共生サポーター制度

(兵庫県教育委員会／2000年より)

- ・神戸市の教育・地域連携センター

『学ぶ力・生きる力向上推進員』の配置



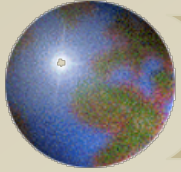
NGOのプログラム

母語学習教室



2015.9.29吉富志津代

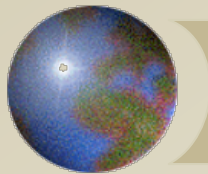
ビデオ制作プログラムなど



NGOの開催する母語学習教室の目的

- 1) 親子間のコミュニケーションのため
- 2) 子どもたちの居場所づくりのため
- 3) 第1言語の習得により、日本語の理解度をあげる
→学習の理解度がすすむ
- 4) 自分のアイデンティティに
自信をもつため
- 5) 親同士の情報交換のため





教育環境そのものの現状

子どもたちがもっとも気にしているのは
「まわりの人と同じかどうか」

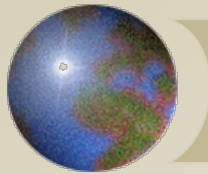
子どもたちのストレスからくる現象



“いじめ” “不登校”

“ひきこもり”

→外国ルーツの子どもだけではない



グローバル人材の育成へ

- ✦ 違う視点で見えてくる日本社会
- ✦ 自分が他者と違っていても自信を持って素直に生きる.

ニューカマーの子どもたちが発信することで
解決される日本の教育課題

●外国ルーツの子どもの可能性

言語力を活かした将来の仕事の可能性

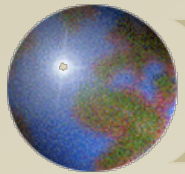
母語能力育成+多様な言語運用能力&多様な文化を理解できる存在

→国際交流、国際協力、外交、ビジネスの場において、有為なグローバル人材として、その社会の経済的・文化的資源へ

●クラスのすべての子どもにとっての可能性

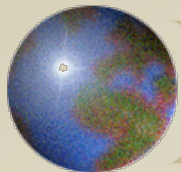
クラスの中に異なる文化・言語をもつ子どもたちがいることを大切に感じるような環境を作っていく

→すべての子どもたちに国際理解教育、言語意識教育の機会を与えるなど、教育資源を教室にもたらす



兵庫県内の教育機関への提言(2014年)

1. 第一言語(強い言語)を一つ以上確立させるために、日本語指導の拡充と同時に、母語指導の位置づけをしっかりと考慮してください。
2. 国籍に関わらず、外国につながる子どもの言語形成の個別状況を把握するしくみを作ってください。
3. 日本語を母語としない児童生徒の保護者との連携の促進をしてください。



韓国関係機関とのネットワークづくり

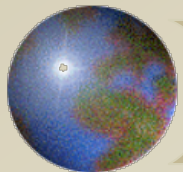
市民団体訪問



2015.9.29吉富志津代



ラウンドテーブル

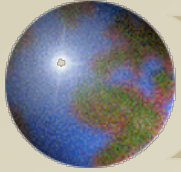


韓国社会への発信

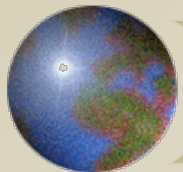
シンポジウムの開催



2015.9.29吉富志津代



地域の、 多様な住民との コミュニティ防災を考える



1995年1月17日

阪神・淡路大震災と外国人

有事に露呈する不安

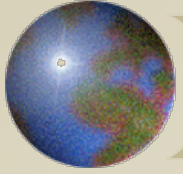
- ✪ 被災地には8万人の在日外国人
- ✪ 言葉の壁に直面したのは3万人
- ✪ 制度、偏見など住民として認められていない不安

→ 関東大震災の虐殺の歴史



2015.9.29 吉富志津代





震災直後の情報提供/救援活動

- ✦ ボランティアがやさしい日本語で対応
- ✦ 母語による相談窓口の開設
- ✦ 制度をめぐって行政と交渉
- ✦ 震災情報を母語で提供

外国語のできるボランティアを組織化

情報選別→翻訳→印刷→配布→個別フォロー

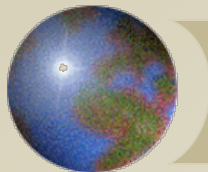
翻訳文の配布→紙媒体の限界(量・時間など)



ラジオの登場

- ✦ ■ 情報発信だけでは価値を生まない!

→ 日常的なまちづくり-たかとりコミュニティセンター



阪神・淡路大震災（1995年）

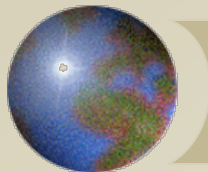
みんなが被災者になって気づいたこと

住民自治の意識

住民とは、**国籍や出身に関わらず、
そこに住んでいるすべての人**

● **多様性の重視**

● **マイノリティ(少数者)
自身の視点、発信**



2006年

多文化共生社会推進プログラム(総務省)

(1)コミュニケーション支援

①地域における情報の多言語化 ②日本語・日本社会学習支援

(2) 生活支援

①居住 ②教育 ③労働環境 ④医療・保健・福祉 ⑤防災
⑥その他

(3) 多文化共生の地域づくり

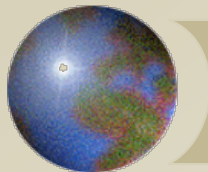
①地域社会に対する意識啓発 ②外国人住民の自立と社会参画

(4) 多文化共生施策の推進体制の整備

①地方自治体の体制整備
②地域における各主体の役割分担と連携・協働

http://www.soumu.go.jp/s-news/2006/060307_2.html

総務省ホームページ報道資料参照(2006年3月12日)



災害(リスク)とは何か？

Disaster<RISK> (災害)

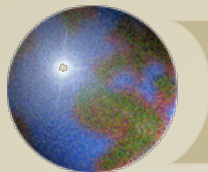
= Hazard (危険) X Vulnerability (脆弱性)
capacity (能力)

$$\rightarrow \frac{10}{1} \times 10 = 100$$

$$\rightarrow \frac{10}{5} \times \underline{5} = 10$$

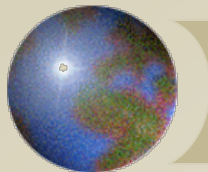
$$\rightarrow \frac{10}{10} \times \underline{2} = 2$$

●脆弱性の数字を減らし能力をあげると被害は減る！



防災能力を向上させるべき防災の主体

- 「公助」 一国や地方自治体等の行政
- 「**共助**」 一地縁組織、血縁組織、宗教組織、NPO/NGOなど市民による組織のような「公」と「私」の間にあるような組織間の助け合い
- 「自助」 一家族や個人単位が自分で身を守る
- 「外助」 一海外からの支援など

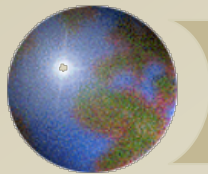


コミュニティ防災とは？

災害予防を重点とする流れの中で、
緊急対応、事後対応を中心とした

政府のトップダウンによる従来の防災にとどまらず、
地域社会や政府にとって限られた資源を有効に配分し、

より人道的見地や内発的な開発努力の観点から
減災／地域開発の効果を発揮させることを主眼とする
近隣地域社会の共助を中心にコミュニティの災害対応
能力の向上を目指した防災アプローチ

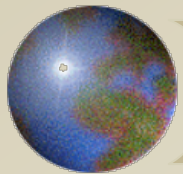


コミュニティ防災を促進させる 「3つの鍵」

- ①防災知識・リスク認識、防災技術、物的資源
- ②良好な組織環境
(リーダーシップ、オーナーシップ、インセンティブ)
- ③良好な社会・制度・規範環境



民主的で成熟した社会→「居場所」と「出番」



東日本大震災で活躍する外国人



三つの柱で支援活動開始

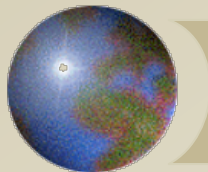
- ①情報の多言語化に関する活動
- ②住民参加の災害ラジオ／コミュニティラジオの活用とネットワークづくり
- ③移民コミュニティのエンパワーメント

④「つながりと支え合い」



④「居場所」と「出番」





東日本大震災の支援活動として

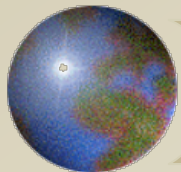
✦ 移民コミュニティ支援

- ① スペイン語圏ラテンコミュニティ『ひょうごラテンコミュニティ』の支援活動サポート
— 情報誌、FACEBOOK、ラジオ番組を活用
- ② フィリピン人コミュニティ『バヤニハン国際友の会』の活動支援—ラジオ番組づくりを活用



2015.9.29吉富志津代





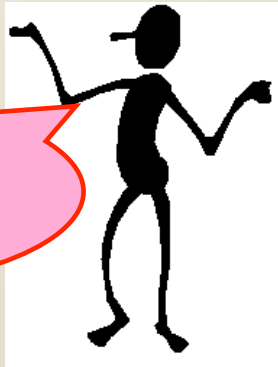
①『ひょうごラテンコミュニティ』

<スペイン語圏の住民>

日本には、スペイン語の情報が少なく
震災のあと、たくさんのうわさが。。



水は飲んでは
いけない

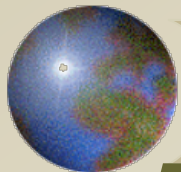


放射能で
死んでしまう



東南海地震が
すぐ起こるらしい

不安により、
帰国をしたり被災地を離れて暮らす人も

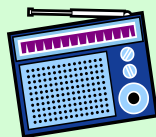


東日本大震災から現在までの支援の動き

電話相談に
応じる



2011年
3月11日



毎週水曜日

20:00~21:00

ラジオ『Salsa
Latina』放送



女川で暮らす
ペルー人女性
との交流

地震発生

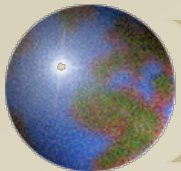
地震発生直後から
ホームページ
Facebookで
スペイン語での
情報発信



月刊情報誌
「Revista Latin-
a」発行



現在

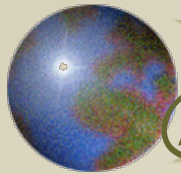


支援を通じて・



ひょうごラテンコミュニティ
大城ロクサナ

今、起こっていることを正しく伝えたい。また、事実だけでなく、「だから、何をしなければいけないのか」を伝えなければ、と思っています。
私も、神戸で16年前に阪神・淡路大震災を経験しました。復興にはみんなの支援が必要であると実感しています。復興したまちで暮らす一人として、一人でも多くの方がより良い暮らしができるようにこれからも支えていきたいと思っています。

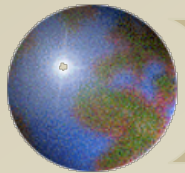


②フィリピン人コミュニティ「バヤニハン国際友の会」 収録スタジオを開設、そして番組制作

- 6月25日
フィリピン人コミュニティのリーダー宅に収録機材搬入
- 7月31日
ラジオ番組第一回制作
- 8月12日
FMわいわいにて第一回番組の放送
☆被災地のコミュニティラジオ局での放送のプロモーション中
→現在3局で放送することに!(日程未定)
- 制作継続中!
研修などをしながら、テーマも検討
→ヘルパーの資格取得、地域の災害FM局でもボランティア

2015年4月現在、機材は気仙沼災害FM局へ



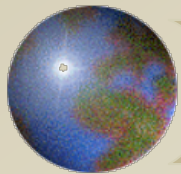


外国人コミュニティの情報発信を通して



- 受身ではなく自ら行動し互いに助け合う
- つながることにより、心のストレスや不安からの開放
- 現地でしかわからない情報や状況を国内外の同じ言葉を使う人に伝える
- 母語を使って表現することで日本語とはまた違う側面での癒しをうむ
- 伝える力、読み解く力をつちかう
- 住民自身がまちづくりの問題やその糸口、改善点に気付く

時間をかけてかけて変える住民の意識



視点は 地域社会の双方向のコミュニケーション

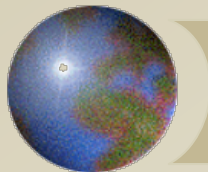
<二つの道筋>

- 住んでいる地域で使われている、生活する上で重要な日本語という言語を習得してその社会に参加するという権利（習得には時間を要する）
- 自分の母語で情報を得て理解し、表現する権利

石巻市のアンケート結果から

自分の住んでいる町への誇りと愛着

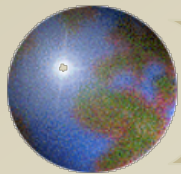
→民主的で成熟した寛容な多文化共生社会へ



参考①: 兵庫県外国人県民共生会議

- ✚ 1994年～1999年 「地域国際化懇話会」
- ✚ 1995年2月～1999年 「外国人県民復興会議」
- ✚ 1995年2月～1999年12月 「GONGO（ゴンゴ）」
- ✚ 1999年～ 「兵庫県外国人県民共生会議」

→旧渡日組織と新渡日組織の対立からネットワークへ



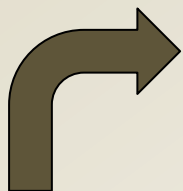
参考②：外国人県民サポート事業

2003年度～ 在日外国人コミュニティ自立支援

「外国人県民サポート事業」の開始

(モデル的に活動のための人件費として協力金の予算化)

三者の協定



< 3つの在日外国人コミュニティ >

- ・ 関西ブラジル人コミュニティ
- ・ ひょうごラテンコミュニティ
- ・ ベトナム夢KOBÉ



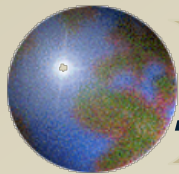
たかとり

コミュニティセンター

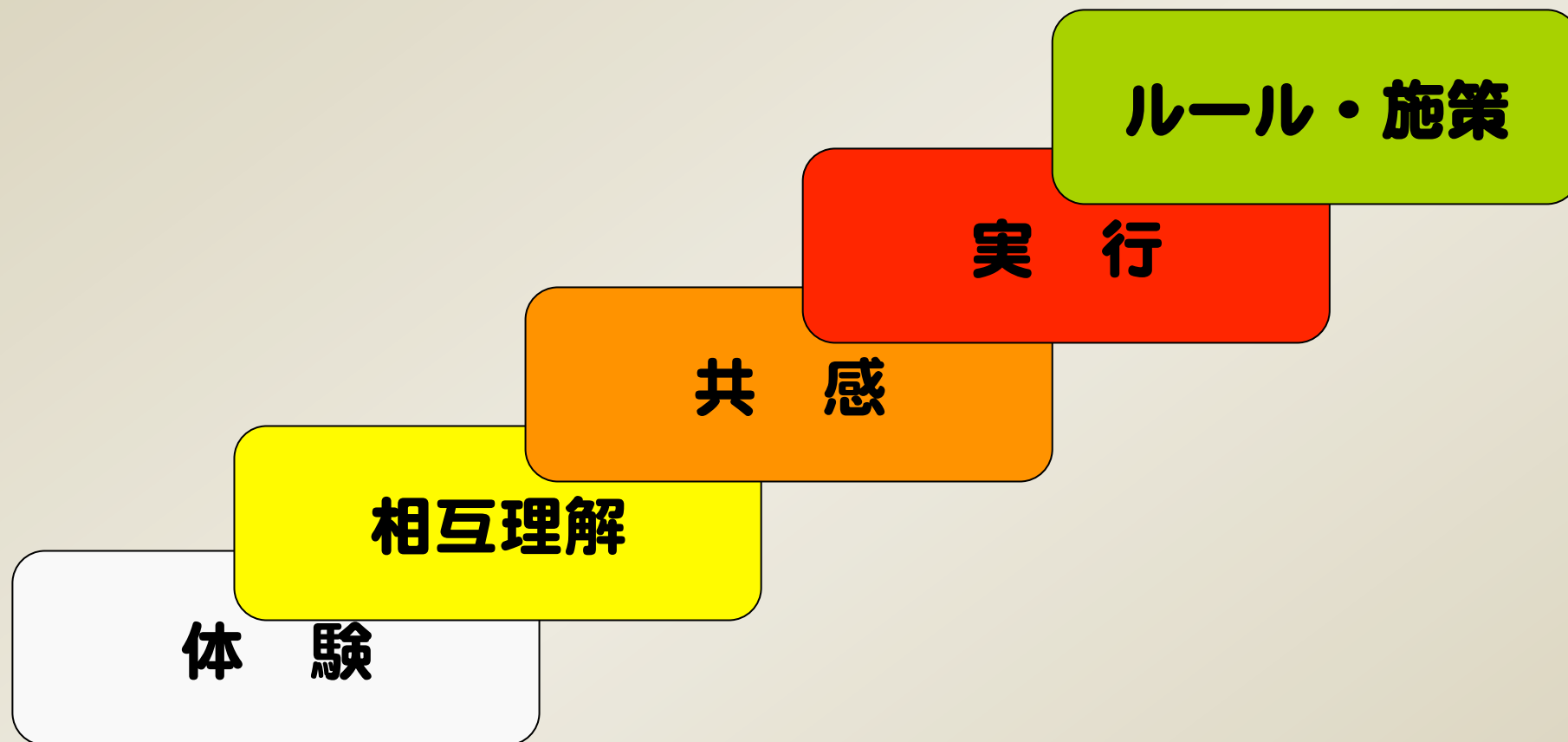


兵庫県国際交流協会

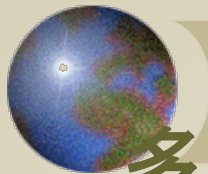
→既成事実や特権にしない



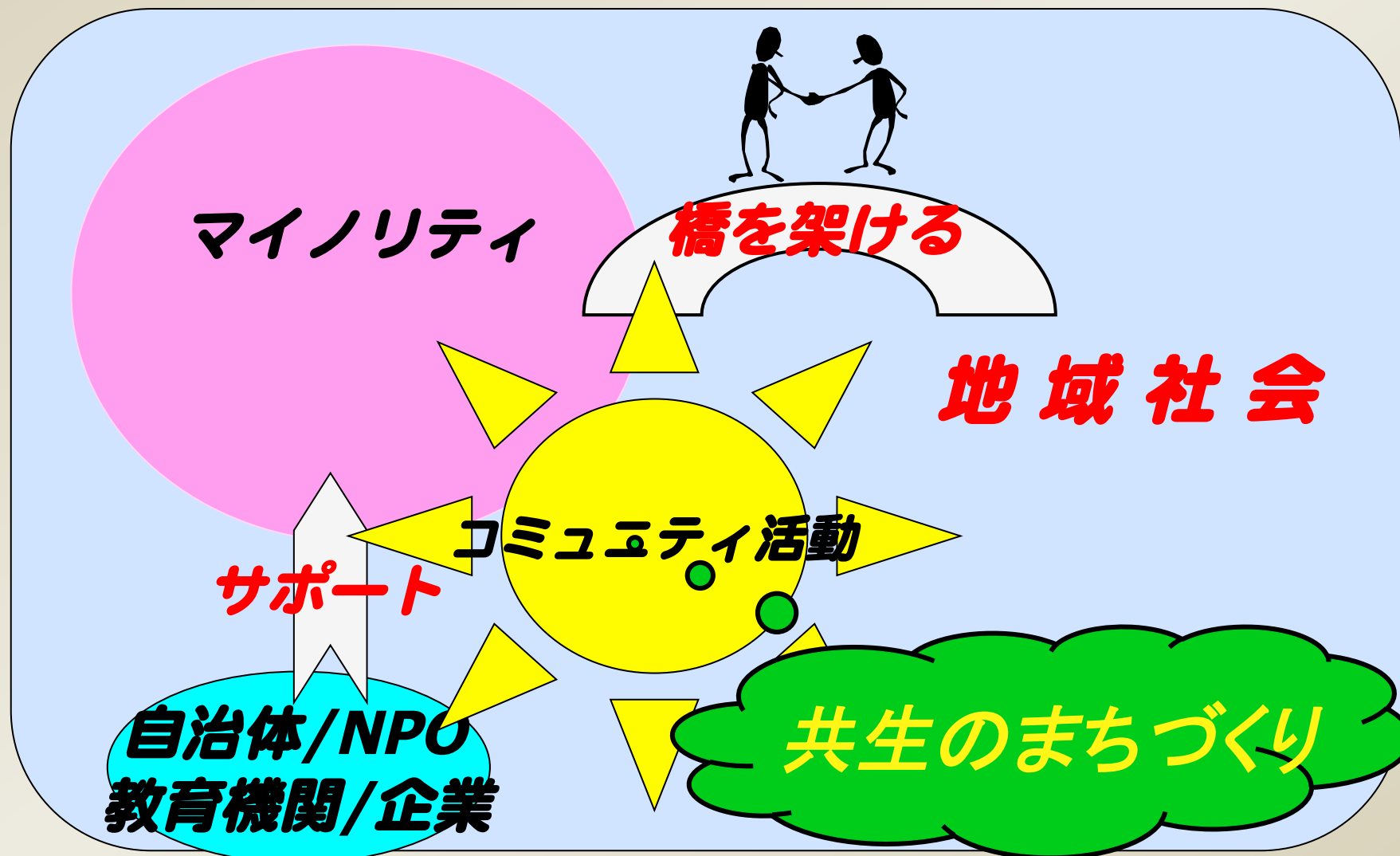
コミュニティ防災活動は、日常的に 住民がだれも排除されない対等な社会参画

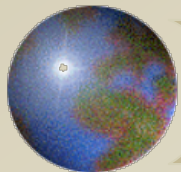


★最も排除されがちな「外国人」へのまなざしが、
このプロセスに含まれることで、
気づくすべてのマイノリティへの配慮へ

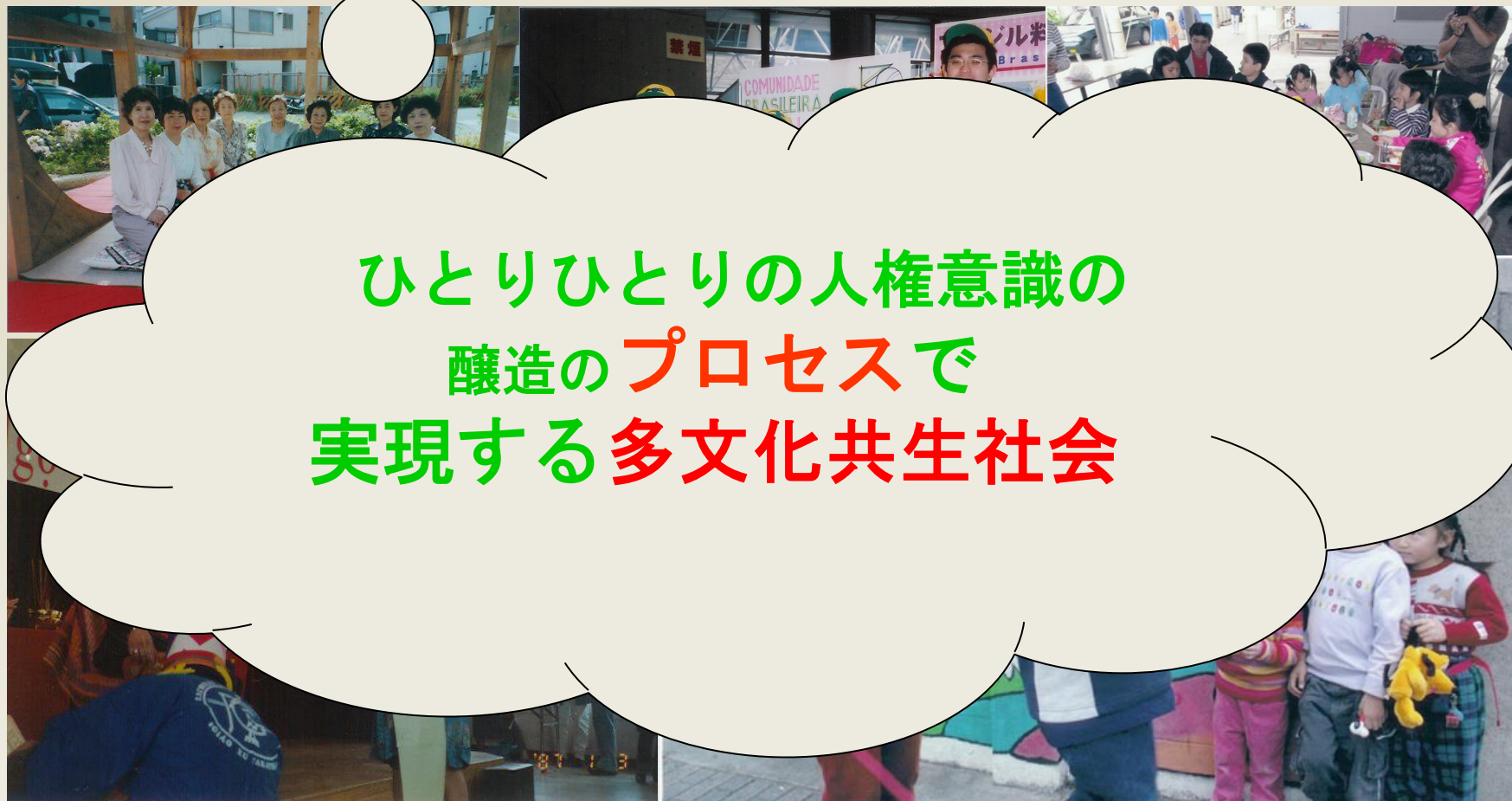


多文化共生のまちづくりのための役割分担





だれも排除されず、
すべての住民の能力が生かされる
多様で豊かな地域社会へ



ひとりひとりの人権意識の
醸造のプロセスで
実現する多文化共生社会